

## とどけ母へ!! 私の気持ち

児嶋 美月

最近の私はなんだか変だ。ちよつとしたことでイライラし、母としよう突ばかりしている。

今朝も母とのしよう突はおきた。

朝食後、食器を片付けなかった私は、母に

「みづー。」

と呼ばれて、何を言われるかすぐにピンときた。素直に食器を片付けばいいだけなのに、そうできないのが今の私だ。

「うるさい。言われなくても分かっているし。」

と母をにらみ、わざとガチャガチャと大きな音をたてて、食器を片付けた。母は口元がビクリとしたが、何も言わずに私を見ていた。

仕事をしている母の朝は忙しい。でも、どんなに忙しい朝でも、朝食の準備とは別に、してくれる二つのことがある。一つ目は、新聞のコラムを読む日課に付き合ってくれることだ。

こんなことがあった今朝も、私は母に

「お母さん。これ何て読むの。」  
と、リビングのソファから、コラムの読めない漢字を聞いた。いつもならすぐに、私のとなり座り教えてくれる母だが、今日はなかなか来てくれない。

「おかあーさん。」

ちよつと声をあらげて、また呼ぶと

「何でも分かっているみづが、うるさいお母さんに何のご用。」と答えた母の反げきに、イラつとした私は、新聞を置きランドセルをからうと

「いってきます。」

も言わずに、玄関のドアをバタンとした。

家の玄関が見えなくなる曲がり角に来た時、さすがに今日はいないだろうなあ。と思いつながら、ふり返り玄関を見た。そこには、いつものように母が立っていた。そして、ふり返った私に気が付くと、いつものように大きく手をふった。

母が朝してくれることの二つ目は、私が見えなくなるまで、玄関で見送ってくれることだ。

小学校に入學した時から、私が

「いってきます。」

と声をかけると、母は食器洗いや菌みがきをしていても、と中でやめて玄関に出てきてくれる。最近では、ちよつとはずかしくて、周りのお友達に気付かれないように、小さく手をふっていた私。でも今朝は、母がいつものように玄関で見送ってくれたことがうれしくて、「ごめんね」と「いつもありがとう」の気持ちをごめて、母に負けないくらい大きく大きく手をふった。

とどけ母へ!! 私のこの気持ち。